城郭探訪

まちづくりと城の址

米沢市 米沢城

上杉家、伊達家の居城「米沢城」

米沢市長（山形県）
近藤洋介

歴史のまち、城下町よねざわ

米沢市は、山形県の南部（置賜地方）に位置する人口約76000人の中核的な都市です。最上川の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地に位置し、北は山形県中部、東は福島県北部、南は福島県会津地方、西は新潟県北部、日本海に延びる街道が交わる要衝として発展してきました。

江戸時代は、「上杉の城下町」として栄え、市内には上杉家ゆかりの文化財が多く残されています。また、Apple（舘山りんご）・Beef（米沢牛）・Carp（米沢鯉）の頭文字を取った「米沢の味ABC」が特産品として全国的に知られています。

米沢城本丸・二の丸跡周辺を上空から望む

伊達家から上杉家へ

米沢城は、米沢盆地の南部、松川（最上川）とその支流の羽黒川や鬼面川によって形成された扇状地に立地する平城です。

築城は、鎌倉時代までさかのぼるともいわれますが、城が本格的に整備され機能するのは、天文17（1548）年に伊達家15代当主晴宗が桑折西山城（福島県桑折町）から米沢に本拠地を移してからと考えられます。17代独眼竜政宗は、この城で生まれて多感な青年時代を過ごしており、天正19（1591）年に政宗が岩出山（宮城県大崎市）へ移るまでの約43年間、伊達家の居城でした。

伊達家が移ると政宗に代わり会津を治めた蒲生氏郷の重臣が城主となり、慶長3

本丸南東隅の御堂跡と堀

（1598）年に越後春日山から上杉景勝が会津に移った際には、重臣直江兼続が城主となります。その後、慶長5（1600）年の関ヶ原合戦で西軍側に属した景勝は、翌年の戦後処理により領地を減らされ、米沢城を居城としました。

受け継がれるまちと先人の精神

現在の市街地の基礎となっているのは、初代藩主景勝の命の下、直江兼続によって整備された城下町で、本丸・二の丸・三の丸からなる輪郭式の広大な城郭です。本丸に天守閣はありませんが、藩主が住む御殿が建ち、北東と北西隅には三層の櫓（御三階櫓）、南東隅には米沢藩上杉家の家祖謙信の遺体を安置する御堂が建てられます。本丸と二の丸の南側には、御堂に仕える21の真言宗寺院が建ち並んでおり、御堂を聖域とし謙信を崇拝する米沢城の特色といえる構造です。

4代藩主綱憲以降、石高の減封などの影響で藩財政が窮乏しますが、9代藩主治憲（鷹山）の藩政改革によって危機を脱します。この時に鷹山が家臣に示した「なせばなる」の精神は、今の米沢市民にも根付いております。

米沢城は、明治4（1871）年の廃藩置県に伴い廃城となります。本丸周辺は、官公庁や学校が置かれたほか、松が岬公園として広く市民に開放されました。

現在は、米沢観光の中心地「上杉文化エリア」として位置付け、謙信公を祀る上杉神社や、国宝上杉本洛中洛外図屏風などを所蔵する上杉博物館などの見どころがあり、米沢の歴史や文化を体感できます。また、春は「米沢上杉まつり」、冬は「上杉雪灯篭まつり」など米沢の四季を感じるさまざまな催し物が開かれ、多くのにぎわいを創出する場ともなっています。

上杉謙信公生誕500周年にむけて

令和12（2030）年は、上杉謙信公生誕500年という節目の年となります。この年に向けて、米沢市では官民一体となってさまざまな記念事業に取り組んでまいりたいと考えております。

米沢冬の風物詩「上杉雪灯篭まつり」

歴史探訪コラム　城と都市のでんせつ

江口知秀
建設産業図書館 学芸員

杉原常陸介親憲の墓

堀立川を挟んで山形大学米沢キャンパスの西隣に林泉寺がある。ここは米沢藩上杉家や、その重臣たちの菩提寺で初代藩主景勝時代の名士の墓が多い。その一人、杉原常陸介親憲の墓は小径沿いの木立の中にあると、司馬遼太郎は『街道をゆく』で書いており、「私は古い記録の中でしか知らなかった人に偶会したような懐かしさをおぼえた」と感慨を深くしている。

前掲『街道をゆく』には、杉原は「少年のころに謙信につかえ、長じて景勝につかえ、鉄砲隊の指揮では名人とされ、大坂ノ陣のころは上杉家の武勇の代表的な存在として有名」だったという。

また、司馬の記憶にとどまるだけあって、ただ用兵に才があっただけではない人物だったらしい。例えば米沢藩の財政状況は厳しく、杉原の具足もくたびれていた。それを隠すために、能衣装を羽織って出陣したところ、遠望していた徳川家康が、「さすが上杉家は古風である」と褒めそやしたとか。

司馬によれば謙信以来の家風は、ことさら豪傑ぶらず、戦に出ると激しく震えるのが常だったいう。

このことが、杉原の墓に後難をもたらした。明治以前、瘧という熱病がはやり、これはマラリアだったらしいが、罹患すると文字通り「瘧のように」震えた。この「震え」つながりで、杉原の墓を削って飲めば治るとうわさされ、墓はずいぶん破損したという。

さて、司馬の頃から年月がたった今、墓はどのような姿になっているのだろう。米沢市の方は確かめに墓参されてはいかがだろうか。